

日付	曜日	BW(g)	備考
5月23日			<p>救護。左脚踵関節の脱臼。 保護当日に卵を産む。 偽卵を置く。</p>   
5月28日			<p>ピンによる固定処置。途中でピンが折れてしまった。</p>   
6月16日	土	800	<p>カルガモ1号のリハビリ開始。水槽で泳がせると方向転換はできるし、潜水もできるが、喫水線は傾いており、脚の動きも悪い。尾羽が水につかってしまう。歩くのはかなり難しそう。すこしずつ回復してくれることを願い、リハビリを継続する。</p>
		動画	<p>https://youtu.be/5YcP-d0Id0E</p>
6月17日	日		<p>擬卵を置いていたが抱かない。</p>
6月18日	月		<p>夜中に餌をかなり食べているようで、カメラによく映っていた。</p> 
6月19日	火		
6月20日	水		

日付	曜日	BW(g)	備考
6月21日	木		<p>患部側の足の第三趾と第二趾の間が血行不良で黒くなっていたが、一部に穴が開き始めた。嘴先端も欠けている。様子を見る。</p>  
6月22日	金		雛が生まれたので合わせてみるが興味はあまりない様子。
6月23日	土		
6月24日	日		
6月25日	月	880	<p>歩くときはやはり翼を使って歩く。脚が全体的に腫れているように見える。趾の付け根は動きにくい。泳いでも尾羽が水面から上がらないのは変わらない。</p> 
6月26日	火		踵より下がやはり動いていない。ずっと動かないとそのまま放鳥する必要もあるかもしれない。ライフジャケットを作成し、水の中で長時間でもリハビリできるようにするのもいいかもしれない。
6月27日	水		<p>診察。抜ピン。関節部分に骨吸収あり。ただし、関節はしっかり固定されているので、レントゲンでは写りにくい骨が形成されている可能性あり。残っているピンの一部については、邪魔にならない場所にあるためそのまましておく。患部に一部小さな穴があいている。腐骨があるためか。いずれにせよ、内側靭帯が断裂してる可能性がある。</p>  
6月28日	木		抗生剤を投与
6月29日	金		抗生剤を投与
6月30日	土		胸部に切り傷を発見。救護ドクターに縫合してもらう。
7月1日	日		<p>小屋を改修。胸部を縫っているため、水に濡れないように管理していく。</p>  

日付	曜日	BW(g)	備考
7月2日	月		<p>患部から下の血行が悪い。中津先生に相談したところ、以下の回答であった。</p> <p>踝関節の後面を腱が足痕中足骨の溝に沿って走っています。病変としては2つの可能性があります。腱が溝から外れて内・外側どちらかにずれたままになっている場合と、腱の断列です。触診で判定します。今までの症例ではニフトリで1例ですが、外側への腱はずれが有りました。外れてから1ヶ月以上経過して癒着と骨の変形が激しく外科的な治療は出来ませんでした。腱はずれで、腱がまだ本来の元の場所に横から押し試みて、移動するようなら、縫合で固定できると思います。この部の皮膚は全く余裕がなくて、伸び縮みしないので、手術は極めて困難な場所です。</p> <p>腱の断列の場合は腱が付いていた筋肉が下腿部後面で近位に移動して収縮したままで、触診で硬結と変形が見られます。この場合は腱に適応する特殊な縫合法で治す事が出来ます。いずれも炎症があまり進まないうちに決断する必要があります。</p>
			
7月3日	火		抗生剤投与とリハビリを継続
7月4日	水		抗生剤投与とリハビリを継続
7月5日	木		抗生剤投与とリハビリを継続
7月6日	金		抗生剤投与とリハビリを継続
7月7日	土		抗生剤投与とリハビリを継続
7月8日	日		抗生剤投与とリハビリを継続。広いところに入れる。水浴びをしている。子ガモと一緒に。あまりに近くなると威嚇している。
7月9日	月		抗生剤投与とリハビリを継続
7月10日	火		抗生剤投与とリハビリを継続
7月11日	水		<p>抗生剤投与とリハビリを継続。 少しずつでも足を使えるようになってきている？ 足ヒレに穴は開いたが、壊死は止まった模様。</p>
			
7月12日	木		<p>抗生剤投与とリハビリを継続。 悪い方の足で顔を掻くなど 少しでも動かしている様子が カメラで確認できた。</p>
			
7月13日	金		抗生剤投与とリハビリを継続。

日付	曜日	BW(g)	備考
7月14日	土		<p>抗生剤投与とリハビリを継続。 ふしよの付け根にバンブルフット。 翼も傷が増えてきている。</p> 
7月15日	日		抗生剤投与とリハビリを継続。
7月16日	月		抗生剤投与とリハビリを継続。
7月17日	火		抗生剤投与とリハビリを継続。診察。胸の傷は悪くない様子。
7月18日	水		抗生剤投与とリハビリを継続。
7月19日	木		抗生剤投与とリハビリを継続。
7月20日	金		抗生剤投与とリハビリを継続。
7月21日	土		抗生剤投与とリハビリを継続。
7月22日	日		<p>抗生剤投与とリハビリを継続。水槽を改造。羽ばたくときは両足で少し体を起こす感じがある。</p> 
7月23日	月		抗生剤投与とリハビリを継続。
7月24日	火		抗生剤投与とリハビリを継続。
7月25日	水		<p>抗生剤投与とリハビリを継続。 18時過ぎに浮島にいるのを確認。 20:00に死亡していた。 胸の創傷を周辺を剃って縫っていたので、その状態で泳いだために水が浸透したり、撥水がなかったために水が浸透して低体温になっていた可能性がある。いずれにしても最後は溺死であった。 陸でのリハビリではいろんなところに傷ができ、限界があったのも確かである。浮力をつかったリハビリは有効であったものの、いずれにしても水を一定の深さまで張れば、低体温→溺死はありえる。リハビリをする際は、もっと丁寧にリハビリ時間を区切りながら対応していく必要がある。</p> 